

平成30年度入学試験問題

人間発達科学部 発達教育学科

社会人入試

小論文

問題冊子

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 この問題冊子は表紙を入れて全部で4枚、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚である。
試験開始の合図があってから確認すること。
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあつた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。
氏名を書いてはいけない。
- 4 解答はすべて指定された解答用紙に記入すること。指定された解答用紙以外に記入した場合は採点しない。
- 5 試験終了後、問題冊子および下書き用紙は持ち帰ること。

問題

一般的に、両親が高学歴で家庭の所得が高いほど、子どもの学力が高い。子どもの学力には、保護者が、どのように、どの程度、子どもに関わるかが強い影響力を持つが、文部科学省委託研究「平成 25 年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学）によると、家庭の社会経済的背景の有利な層と不利な層では、「子どもと博物館や科学館によく行く」「保護者が本を読む」「子どもと一緒に図書館に行く」「保護者が新聞の政治や社会問題に関する記事を読む」「子どもに本や新聞を読むようにすすめている」「子どもと美術館や劇場によく行く」「計画的に勉強するよう子どもにうながしている」「子どもと読んだ本の感想を話し合ったりしている」などの項目において大きな差が認められるという。いずれも社会経済的背景の有利な層、すなわち、保護者の収入と学歴が高い家庭ほどこれらを積極的に行なっている。

しかし、保護者の社会経済的背景が不利でも高学力を達成している子どもも存在する。資料 1 は、そうした子どもの特徴を示したものである。

また、資料 2 は、子ども時代に受けたしつけと、成人後（平均年齢 43.27 歳）の平均所得との関連を示したものである。

これらの調査結果を踏まえ、以下の 2 つの問いに答えなさい。

なお、資料に関しては、一部書き改めた部分がある。

問 1 格差の再生産にはどのような要因が関与していると考えられるか、600 字以内で答えなさい。

問 2 格差の再生産を克服するにはどのような教育政策が必要と考えるか、600 字以内で答えなさい。

資料 1

著作物引用箇所のため非公開

出典 文部科学省委託研究「平成 25 年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学） 2014 年 3 月

資料 2

著作物引用箇所のため非公開

出典 西村和雄・平田純一・八木匡・浦坂純子 「基本的モラルと社会的成功」
RIETI Discussion Paper Series, 14-J-011. 2014年2月

下書き用紙

下書き用紙